

2025 年度埼玉親善大使活動レポート

氏名：森島瑠以

留学先：ドイツ・ハノーファー

私は、2025年9月からドイツのハノーファー大学に1年間交換留学をしています。本レポートでは、ドイツの魅力と留学先での活動、そして埼玉親善大使としての活動について紹介させていただきます。

1. ドイツの魅力

ここでは、ドイツのビール、クリスマスマーケット、そして自動車について紹介します。

ドイツには各都市にビールの醸造所があり、全体で5000種類以上の銘柄があるとされています。加えて、「ラドラー (Radler)」と呼ばれるドイツ発祥のビアカクテルもあります。これは、ビールをレモネードで割ったもので、アルコール度数が低く爽やかな味わいであるため、ビールが苦手な方でも気軽に楽しむことができます。

また、11月下旬からクリスマス直前まで、各都市でクリスマスマーケットが開催されます。ここでは、温かいグリューワイン (Glühwein) や甘い揚げ菓子のシュマルツクーヘン、地域ごとの伝統的な屋台料理を味わうことができます。

さらに、フォルクスワーゲン、メルセデス・ベンツ、BMWといった世界的に有名な自動車メーカーがあります。各社が運営する博物館は、自動車の歴史や最新モデルを見ることができます。実際にそれぞれの博物館に行きましたが、日本の博物館と比べてスケールがとても大きく、特にメルセデス・ベンツ博物館は自動車についてあまり知らない人でも楽しめると思いました。



ラドラー (Radler)



クリスマスマーケット



アウトシュタット

2. 留学先での活動

留学先の大学では、現地の学生と共に講義を受けています。留学先のハノーファーには、大手タイヤメーカーであるコンチネンタル（Continental）の本社があり、大学でもタイヤに関する研究が盛んに行われています。私自身もタイヤ工学に関する授業を履修し、ドイツの大学における機械工学分野の充実した研究環境や、資金力、そして教育の質の高さを肌で感じています。

課外活動では、現地大学の学生フォーミュラチームに参加し、ヨーロッパ各地のチームが参加する夏の大会に向けて、フォーミュラカーの設計・製造を行っています。実際に手を動かしてものづくりに取り組む中で、ドイツ人の自動車に対する情熱を肌で感じています。また、現地の学生とタンデム（Tandem）という言語交換を行っています。互いの母国語を教え合うことを通じて、教科書での学習では得られない、より実践的で自然なドイツ語を学ぶことができるのでとても面白いです。

今回の留学を通して、世界各地から集まった学生と交流し、それぞれの文化の違いを知るとても良い機会になりました。

3. 埼玉親善大使としての活動

留学先のドイツでは日本の漫画やアニメが非常に人気で、作品の主人公の名前を通じて「サイタマ」という言葉自体の知名度はありました。しかし、それが実在する日本の「埼玉県」であることや、その具体的な位置、観光地についてはほとんど知られていませんでした。

そこで、名前の認知だけで終わっている現状から、埼玉県という地域の魅力を正しく発信し、現地の人々に「訪れてみたい場所」として印象付けたいと思いました。

まず、埼玉県の位置を知ってもらうために、地図アプリを用いて東京からのアクセスの良さを説明しました。さらに、自身が以前に小江戸川越を訪れた際に撮影した写真を見せながら、埼玉の見どころを紹介しました。

ドイツには日本食レストランやアジア系スーパーが多く、元々日本への関心が高い人が多いこともあり、埼玉の観光名所に興味を示してくれました。実際、来年日本への留学を計画している友人の一人には、埼玉県を案内する予定です。

4. まとめ

この交換留学を通して、機械産業の最先端国であるドイツで機械工学を学ぶとともに、様々なバックグラウンドを持った人々と交流し、グローバルな視点を得ることができました。

また、海外から客観的に日本を見ることで、治安の良さや文化といった、日本の素晴らしい点を再発見する機会にもなりました。現地で日本の魅力を発信し、多くの人が日本に対して関心を持ってきていることを実感したことで、改めて自分の国を誇りに思うことができました。この留学で培った専門知識と国際的な視野を活かし、今後の学業や社会貢献へと活かしていきたいと考えています。